

愛知医科大学 歯科・口腔外科 後期研修カリキュラム（3，4 年目）

本施設における歯科医師後期研修の特徴

1. 口腔外科医療を実践できる歯科医師の養成。
2. 大学病院ならではの高度口腔外科治療の体験。
3. 研究に参加し EBM に沿った考え方の修得。
4. 口腔外科専修医の認定を目指す。

学習のプロセス

目標（知識、態度、技能）⇒方略（LS）⇒評価（EV）の順。

目標：一般目標（GIO: General Instructional Object）として明示。さらに各々の GIO にたいして行動目標（SBOs: Specific Behavioral Objectives）が設定されており、各々について評価する。目標は口腔外科専修医の取得である。

1 プログラムの目的と特徴

研修3年次以降では、1人の独立した歯科医師としてより多角的、より専修的、すなわち口腔外科の領域において口腔疾患の診断及び治療に関する知識と技術の向上に努め、医倫理を修めることを目的とし、最終的に口腔外科専修医をめざすコースである。また、研究に参加することで EBM に沿った思考・行動を身につけることを目標にする。指導責任者（口腔外科指導医3名，一般歯科指導医4名を含む助手以上）とは密にディスカッションを行い治療方針、治療法を決定すること。特に手術、入院症例は専修医取得にあたっては口腔外科指導医のチェックが必要不可欠である。

2 研修内容と到達目標

（1）研修指導体制

歯科・口腔外科後期研修は指導医、助手が指導に従事する。後期研修医は入院診療および外来診療において自ら全身的病態との関連や主に口腔外科の知識、技術、患者面接力を高めることを念頭におき実地を行う。また、休日診療、当直および宅直において、当番医として歯科・口腔外科救急診療を行う。ただし、指導責任者、指導医、助手・同僚らと密にディスカッションを行い実地に取り組むこと。指導医はチームの一員として意見を尊重すると同時に適時、後期研修に関する相談を受け、臨床指導や助言を行う。また、大学病院であることを念頭におき常に最新の知識や技術を習得するよう努めかつ、臨床へのフィードバックを念頭に臨床検討に参加あるいは立案に積極的に参加すること。そのため学会発表、論文発表、研究は積極的に参加し、その実務に際しては指導医、助手の援助を受けながら EBM に沿った研究手法や統計学的な考え方を身につけること。後期研修では日本口腔外科学会の専修医認定の規定に従った研修を中心に行う。

◎診断：炎症、嚢胞、腫瘍、外傷、顎関節疾患等について検査を含めた診断に至るレポート10例（各分野1例を含む）以上。

◎周術期管理：全身疾患を有する患者の外来手術管理レポート5例以上。入院手術管理症例レポート5例以上。

◎手術管理：日本口腔外科学会の専修医研修に必要な4分野から30例以上【(第14条の3)のイから15例以上、ロから5例以上、ハから3例以上、ニから5例以上】の執刀、学会の定める専門医手術難易度区分表の3分野以上かつ15例以上の経験手術。

専修医認定の取得を目的に、口腔外科学会専修医試験提出用の症例報告書と実地経験記入用紙を用い

て各自で記入、記入用紙は口腔外科指導医（当科では3名在籍）に診療内容のチェック（サイン）を受けファイルしておく。

◎学会参加・発表：日本口腔外科学会が主催する総会または地方会に参加。総会または地方会、あるいは指定する関連学会（細則別表2参照）のいずれかで筆頭者として発表。

◎ 研修会：日本口腔外科学会が主催する教育研修会あるいはリフレッシュセミナーに参加。

◎ 救急救命研修：日本口腔外科学会、各種医療機関が実施する救命救急の研修会に参加。

◎ また認定には歯科臨床研修終了後、口腔外科（後期研修を含め）2年以上、口腔外科学会員2年以上の期間が必要。

研修目標を達成した者は日本口腔外科学会の書類審査を受けるものとする。当学会により資格ありと認められた場合には試験が行われる。

※日本口腔外科学会専修医認定に関する事項は変更されることもあるため最新の専門医制度委員会規則、施行細則を熟読しておくこと。所定の書類や証明書は各自でそろえること。

口腔外科専修医修得コース

平成18年4月1日制定

研修方略：

知識：印刷物、黒板、スライド、テープ、テレビ、実物模型、シュミレータ□、CAI、患者

技能：印刷物、スライド、テープ、テレビ、実物模型、シュミレータ□、CAI、患者

態度：スライド、テープ、テレビ、実物模型、シュミレータ□、CAI、患者

①印刷物 ②黒板 ③スライド ④テープ ⑤テレビ ⑥実物模型 ⑦シュミレータ□ ⑧CAI

⑨患者

評価には

①論述テスト②口頭試験③客観テスト④シュミレーションテスト（1筆記型、2標準模擬患者、3模型
4コンピューター）⑤実地試験⑥観察記録⑦レポート・ポートフォリオ

知識：①②③④-1, 2, 4⑤⑥⑦

技能：④-2, 3⑤⑥

態度：④-2, 3, 4⑤⑥⑦

評価の時期

6カ月毎に指導医に評価を受ける。その時、口腔外科学会専修試験提出用の症例報告書と実地経験記
入用紙を

提出する（口腔外科学会ホームページ参照）。

G10 ユニット一覧：

- I：口腔外科医療面接 II：口腔外科診断 III：口腔外科治療
IV：口腔外科予後管理 V：口腔外科総合診療計画 VI：口腔外科救急処置
VII：口腔外科地域連携医療 VIII：口腔外科医療管理 IX：口腔外科医療安全・感染予防
X：学会・研究活動

G10□ I：口腔外科専修医取得に必要な口腔外科疾患における医療面接を修得する。

研修目標：行動目標（SBOs）	分類	研修方略（LS）	形成的評価（EV）
1. 面接では相手に好印象を与えている。	技能	⑨⑨	④-2⑤⑥
2. 質問方法は筋道だっている。	態度	⑨	⑤、⑥
3. 的確に患者情報を得ている。	技能	⑨	⑥
4. 分かり易く説明し同意を得る。	態度	⑨	⑤、⑥
5. 治療期間と費用を説明できる。	知識	②⑨	②⑤⑥

G10□ II：口腔外科専修医取得に必要な口腔外科診断を修得する。

研修目標：行動目標（SBOs）	分類	研修方略（LS）	形成的評価（EV）
1. 口腔外科疾患を説明できる。	知識	①②⑤⑦	②⑤⑦
2. 検査法について説明できる。	知識	①②⑤⑦	②⑤⑦
3. 各疾患に必要な検査法を選択できる。	知識	①②⑤⑦	②⑤⑦

4. 検査を実行できる。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
5. 検査の結果を評価する。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
6. 病態を診断する。	知識	①③④⑨	②⑤⑦

補足：

必要な検査項目。

- 1 歯科用 X 線検査
- 2 パノラマ X 線検査
- 3 X 線 CT 検査
- 4 MRI 検査
- 5 単純 X 線検査：セファロ、シュラー、P[□]A、WATER ‘S、オルトラム X 線検査
- 6 細菌学的検査、薬剤感受性検査
- 7 細胞診（擦過、穿刺）、病理組織検査
- 8 血算、白血球分画、
- 9 血液生化学検査
- 10 血液型判定、交叉適合試験
- 11 一般尿検査
- 12 動脈血ガス分析
- 13 肺機能検査（スパイロメトリー）
- 14 心電図
- 15 Ga シンチグラム、骨シンチグラム
- 16 筋電図、MKG

G10□ III：口腔外科学会専修医取得に必要な口腔外科治療技術を修得する（項目は p 1 参照）。

研修目標：行動目標（SBOs）	分類	研修方略（LS）	形成的評価（EV）
1. 治療法の種類を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
2. 治療法の合併症を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
3. 治療法の利点を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
4. 治療前処置を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
5. 治療前処置を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
6. 外科治療の内容を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
7. 外科治療の解剖を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
8. 外科治療を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
9. 薬物治療の内容を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
10. 薬物治療を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
11. 理学療法を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
12. 理学療法を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
13. 治療後の注意点の説明を行う。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
14. 術後治療を説明する。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
15. 術後治療を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
16. チームの一員として意見交換する。	態度	⑨	⑤、⑥

17. チームの一員としての的確に行動する。 態度 ⑨ ⑤、⑥

G10□ IV：口腔外科専修医取得に必要な口腔外科予後管理を修得する。

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. 病態観察ができる。	態度	⑨	⑤、⑥
2. 観察事項をカルテにPOSで記入する。	態度	⑨	⑤、⑥
3. 予後管理計画を説明できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
4. 予後管理計画を立案する。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
5. 術後管理計画について意見交換を行う。	態度	⑨	⑤、⑥
6. 予後管理計画を実行する。	態度	⑨	⑤、⑥
7. 予後管理計画自体を評価する。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
8. 予後次第で予後管理計画を修正できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
9. 予後検査を計画できる。	態度	⑨	⑤、⑥
10. 予後検査を実行する。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
11. 検査結果を評価できる。	知識	①③④⑨	②⑤⑦
12. 術後嚥下リハビリを指導する。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
13. 術後栄養管理を指導する。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥

G10□ V：口腔外科総合診療計画（口腔外科専修医関連疾患）の立案から実施を修得する。

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. 診断計画を立てる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
2. 治療計画を立てる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
3. 予後管理計画を立てる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
4. 計画書を記載 (POS) する。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
5. 計画書の内容を患者に説明する。	態度	⑨	⑤、⑥
6. 必要関連各科との連携を実行する。	態度	⑨	⑤、⑥

G10-VI：口腔外科救急処置を修得する。

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. 外傷の診断を行う。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
2. 外傷の初期治療を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
3. 出血の救急処置法を説明できる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
4. 出血の救急処置を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥
5. ショックに対応する処置を説明できる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
6. ショックに対応する処置を行う。	技能	①②③④⑨	④-③⑤⑥

G10-VII：口腔外科地域連携医療

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. 紹介医と意見交換する。	態度	⑨	⑤、⑥

2. 地域連携会で発表する。	態度	⑨	⑤、⑥
3. 地域連携パスの作成、修正。	技能	①②③④⑨	④-3⑤⑥
4. 情報提供書を記入する。	態度	⑨	⑤、⑥
5. 経過報告書を記入する。	態度	⑨	⑤、⑥

G10□ VIII：口腔外科医療管理

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. カルテサマリーを記載する。	態度	⑨	⑤、⑥
2. 入院カルテの完成度をチェックする。	態度	⑨	⑤、⑥
3. 保険点数の請求を行う。	態度	⑨	⑤、⑥
4. 医療対経済効果比を理解する。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
5. インシデント・アクシデントを報告する。	態度	⑨	⑤、⑥
6. 上記報告からフィードバックを行う。	態度	⑨	⑤、⑥
7. クリニカルパスを理解する。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
8. クリニカルパスを理解使用する。	態度	⑨	⑤、⑥
9. クリニカルパスの立案・修正に参加する。	態度	⑨	⑤、⑥
10. 診断書・証明書を作成する。	態度	⑨	⑤、⑥

G10□ IX：口腔外科医療安全・感染予防

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. 処置の手順を説明する。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
2. 適切な器具を準備する。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
3. ICT マニュアルに沿った行動を説明できる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
4. ICT マニュアルに沿った行動を行う。	態度	⑨	⑤、⑥
5. 治療の偶発症を説明する。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
6. 偶発症に対する予防法を説明できる。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
7. 予防法を実行できる。	態度	⑨	⑤、⑥
8. 手術における解剖学的注意点を説明する。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
9. インシデント、ヒヤリハット、偶発症、 事故報告書の作成方法を知っている。	知識	①⑨	②⑤⑥⑦
10. 上記の報告を行える。	態度	⑨	⑤、⑥

X：学会・研究活動

研修目標：行動目標 (SB0s)	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
1. 学会・研修に参加する。	態度	⑨	⑤、⑥
2. 学会発表を行う。	態度	⑨	⑤、⑥
3. 研究に参加する。	態度	⑨	⑤、⑥
4. 研究の立案に参加する。	態度	⑨	⑤、⑥